

日本庭園学会ニュース

The Academic Society of Japanese Garden News

NO. 94
平成30年

平成30年度日本庭園学会

関西大会（予告）

発行 日本庭園学会（会長 佐々木邦博）
〒156-8502 東京都世田谷区桜丘 1-1-1
東京農業大学 地域環境学部 造園科学科
庭園文化研究室内
TEL(03)-5477-2430(鈴木誠研究室)
<http://www.soc.nii.ac.jp/asjg/>

平成30年度 日本庭園学会 関西大会（予告）

平成30年度の関西大会は、平成30年11月3日（土）、4日（日）の2日間にわたって、奈良市内を会場として行います。1日目の現地検討会では、特別史跡及び特別名勝平城京左京三条二坊宮跡庭園、名勝旧大乘院庭園の修理事業、そして、奈良公園内高畑町裁判所跡地の庭園遺構の保存活用事業について、その担当者及び施工者の案内により、現地見学と検討を行います。2日目は研究発表会・公開シンポジウムを行う予定です。

記

■日時 平成30年11月3日（土）、4日（日）

■第1日目（11／3土）現地検討会

9：50 受付開始

特別史跡及び特別名勝平城京左京三条二坊宮跡
庭園宮入口前

【最寄駅：近鉄奈良線 新大宮駅 下車徒歩10分】

10：00 宮跡庭園 見学開始

案内：小林育宏氏／奈良市教育委員会文化財課
記念物係ほか

11：30 宮跡庭園 見学終了 ※各自移動、昼食

12：50 再集合 名勝旧大乘院庭園文化館 入口

【最寄駅：近鉄奈良線奈良駅下車 徒歩15分又
は、市内循環バス乗車、福智院町又は奈良ホテル
前バス停下車 徒歩1分】

13：00 名勝旧大乘院庭園 見学開始

14：30 名勝旧大乘院庭園 見学終了 ※徒歩にて移動

15：00 奈良公園高畑町裁判所跡地庭園 見学開始

案内：篠田隆三氏／奈良県奈良公園室主幹
仲 隆裕 関西支部長／京都造形芸術大学

16：30 奈良公園高畑町裁判所跡地庭園 見学終了解散

■第2日目（11／4日）研究発表会

会場 奈良文化財研究所平城宮跡資料館 講堂（予定）

奈良市佐紀町 平城宮跡内

【最寄駅：近鉄奈良線西大寺駅下車 徒歩15分】

9：00～12：30 研究発表会

13：30～16：00 公開シンポジウム

「奈良の庭園をめぐって」（予定）

※研究発表の件数により時間に変更になる場合があります。

<問い合わせ>

宮内泰之（日本庭園学会 総務担当）

電話：042-376-8602 メール：miya@keisen.ac.jp

【研究発表への申し込み】

研究発表会での発表希望者は、下記の要領にしたがって申し込んでください。発表時間は、ひとりあたり25分とし、発表20分、質疑応答5分を予定しています(但し、発表者数によって変更する場合があります)。発表にはPCプロジェクターの使用が可能です。

◆発表申し込み方法

発表者氏名・所属・題名・連絡先を明記し、発表概要(200字程度)を添付のうえ下記の「発表申込先」まで送付してください。原則的にはEメールとしますが、郵送もしくはFAXでもかまいません。

電話での問い合わせには応じられませんのでご注意ください。

提出期限：平成30年9月25日(火)必着

Eメールでの送付の場合は、同日23:59までをお願いします。

◆発表要旨 執筆要領

全発表者分を研究発表要旨集として印刷し、当日参加者に配布します。原稿はそのまま要旨集の版下とするため、ワープロを使用して作成することが望ましい。分量は、A4判で6ページ程度とします。プリントアウトを下記の「発表申込先」まで送付してください。郵送を原則とします。1ページあたりの文字数及びページレイアウトは、学会誌の論文の書式に準じてください(横書き2段組、1段あたり25字40行)。なお、書式は日本庭園学会ホームページからダウンロードが可能です。

申し込みと資料提出の締め切り日は厳守してください。

提出期限:平成30年10月14日(日)必着

◆発表の申込み先・要旨集版下原稿の送付先

〒606-8271

京都市左京区北白川瓜生山2-116
京都造形芸術大学

日本庭園・歴史遺産研究センター気付

日本庭園学会関西支部事務局

(担当者:関西支部長 仲 隆裕)

ファクシミリ: 075 - 791 - 9127

E-mail:naka@kuad.kyoto-art.ac.jp

平成30年度全国大会シンポジウム レポート1

今回のシンポジウムは「全国各地に残る庭園群の現状、および保全と活用」がテーマで、最初に栃木県・足利市、福井県・一乗谷、京都府・京都市、宮崎県・飩肥、長野県・松代の庭園群の調査研究、現状について発表が行われた。

私が今回一番印象に残っているのは、福井県にある室町時代後期の城下の跡地「一乗谷の庭園群」である。その中でも、山石を用いた石製遺構についての、経年劣化の対応である。昭和44年度から樹脂による保全科学的処置が実施され、当時のものが未だ健全な状態を保っている要因が、樹脂に石粉を混合し、それが紫外線による劣化を抑制したということにとっても驚いた。日本では枯山水式庭園など石を使っている古庭園は多く、今後の庭園保全で用いられる有効的な対策だと思った。

また、今回のシンポジウムの意見交換で気づいたことがある。昔は親しまれていた日本庭園だが、現代は個人所有で代々受け継がれてきた庭園も維持して後世に残すのは莫大な費用が掛かるということだ。名勝に指定されていなければ管理費用も各自で賄わなければならない。今回のテーマである保全と活用というのは、今後は公共のものだけでなく、個人庭園を如何に残していくかに焦点を合わせていくことが大切だと思った。

町田英哉

(南九州大学環境園芸学部環境園芸学科4年)



平成30年度全国大会シンポジウム レポート2

シンポジウムでは「全国各地に残る庭園群の現状、および保全と活用」と題して足利市、一乗谷、京都市、飩肥、松代という5つの地域の庭園群の現状と課題について報告された。その後、質疑応答の時間が設けられ、開催地松代の方々と熱い意見交換がなされたことがとても印象に残っている。松代には河川から水を引き街路沿いの水路を通して住宅、庭園の中、暮らしの一部に取り入れられ、元の河川に戻す。今まではそれが日常であり街を彩る景色に欠かせないものである。そしてこれからもそうであって欲しい。

しかし、水不足、管理状況、水害、そして後継者の問題が生まれている。

庭を守り、末々まで美しく伝えていくためには、その庭がどのような歴史を持ち役割を果たしているのかを知り、それに基づいた維持管理が必要であることを再確認、再認識した。

それには行政による助成金や法令などの枠組み、調査委員会等の立ち上げは、行政の働きかけがないと実現がかなり難しいと思う。

飩肥の城下町の庭園の中には外観こそ大きくは変わらないものの、中の庭は現代の使い勝手のいいものに改修されている箇所もあるとの報告があった。

また、史跡の称名寺の例が報告されていた。州浜が庭本来の魅力であったが、現在ではハナショウブの名所になっているという。

私は世間や管理されている方々が州浜に魅力を感じない、あるいは州浜そのものを知らなかったのではないのかと考えた。私は庭の本質的な部分、構成が大きく損なわれなければ、所有者が庭の改修を行うのは大いに賛成である。

庭のView pointを専門的な知識のない一般の方々にもわかりやすい解説付きで見てもらえれば、いいと思う。最近ではSNSを活用して情報を不特定多数の人に発信する人がとても多いので、そうした人を通じて世界中に魅力が伝わる可能性に期待したい。

人見 駿

(南九州大学環境園芸学部環境園芸学科4年)



平成30年度全国大会現地検討会 レポート

平成30年6月16日(土)に長野市松代町で平成30年度全国大会の現地検討会が行われ、真田宝物館と松代城下町に残る庭園の見学を行った。

はじめに真田宝物館を訪れ、真田藩の歴史、松代の城下町としての発展と現況との違いなどを学芸員の方に説明していただいた。さらに、松代城内の庭園図である「御城内西庭之図」や江戸時代の松代の町が描かれた「松代之図」などの普段は公開されていない貴重な絵図を特別に公開していただいた。これらの絵図には多くの樹木や石、水の流れが緻密に描かれ、参加者同士で当時の庭園を想像しながら意見を交換した。

次に真田新御殿に向かった。御殿の完成時に描かれた「水心秋月亭図巻」には松代の南の山々が借景として描かれている。庭園はできる限り絵図に描かれた様子が修復され、山々が見られなくなるまで大きく成長してしまった樹木を伐根するなど、山々を望めるように手入れがなされていた。今回、1階だけでなく、御殿の2階を特別に公開していただいた。2階から俯瞰して見渡す庭園は、水平方向からはわかりづらい樹木や石などの配置を確認することができた。

次に山寺常山邸にて庭園と書院の見学を行った。ここでは松代の池庭をつなぐ泉水路を見ることができた。また、屋敷は現存しないため、庭園内に池を向いて設置された長椅子から庭園を楽しむことができた。山寺常山邸から程近い場所にある象山地下壕(松代大本営地下壕)も訪れ、庭園などとは性質の全く異なる戦争の遺構を目にした。

最後に昭和61年に重要文化財として指定され、松代藩の中級武士の住宅の特徴をよく表す旧横田家を訪れた。

屋敷地内の建物、庭園、菜園などは江戸時代末期のものをほぼ完全な形で復元している。水路には近年、浄水装置が設置され、綺麗な水を維持する工夫もみられた。

庭園を個別にみるだけでなく、水路網による庭園のつながり、地域のつながりをみられたことが今回の現地検討会での特徴であった。また、見学の途中で地元の方に水路を維持する課題を教えていただいた。私たちが今回のように松代の町を見学することが出来るのは住民のたゆまぬ努力のおかげであることを痛感し、住民が抱える課題を解決する方法はないかと考えずにはいられなかった。

山本隼輔

(信州大学大学院総合理工学研究科 農学専攻)



【会費納入のお願い】

学会費の納入額をご確認のうえ、納入のほどよろしくお願ひします。また、過年度滞納の方は併せて納入のほどよろしくお願ひします。

協力者：小椋菜美 中野理香(植彌加藤造園株式会社)

日本庭園学会広報委員会

今江秀史、加藤友規

〒606-8271 京都市左京区北白川瓜生山2-1

京都造形芸術大学日本庭園研究センター一階付

日本庭園学会関西支部事務局 FAX(075)791-9342